

JSRA 理事長には鳥海重利氏が再任 通常総会開催、役員改選を実施

協同組合日本タイヤリサイクル協会（JSRA）は5月24日、都内で第32回通常総会を開催した。総会では全ての議案が承認可決され、役員改選も実施。理事長には鳥海重利氏



鳥海重利理事長



新体制で適正処理に尽力

（トリウミ）が再任した。副理事長には金澤亮氏（国分商会）、加藤定伸氏（ブリヂストン松山タイヤセンター）が就任した。理事には伊藤諒亮氏（イトウ）、岩本昌久氏（栄タイヤ）、弓田大介氏（神鋼産業）、吉本恭宣氏（ヒカリワールド）が就任した。監事には小林伸好氏（柴崎商事）が就任した。鳥海理事長は

「新体制でも引き続き、廃タイヤの適正処理と再資源化を継続するため施策に努めていく」と述べている。

総会の議案として挙げられた2023年度の事業報告書では、廃タイヤの油化や熱分解といった熱回収以外の利用方法でも機運が高まっている一方で、新品タイ

ヤの取り替え需要の低下などによって廃タイヤの発生量が大幅に減少していることなどを報告した。廃タイヤの発生量減少や中古タイヤの輸出量増加などによって、拡大する需要に対して国内での供給が追い付かず、利用者が燃料用タイヤの輸入を増やした状況などもまとめている。

24年度の事業計画案では廃タイヤについて、石炭削減を目指す利用先による使用量増加と供給量不足が続くなかで、カーボンニュートラルに向けてタイヤメーカー等が廃タイヤを原料に戻そうとする取り組みについても、遠くない時点で具体的なスケジュールが見えてくる可能性を見込む。JSRAは順法活動や再資源化への貢献といった基本理念に則り、個々の会員が知恵を出し合うことで一丸となって事に当たる必要がある、他団体や利用先を巻き込んで協議・実行しなければ解決が困難な事態だと分析している。